

『レ・モード』誌画像検索データベースの作成

能澤 慧子*・中西 希和**

Development of Database and Searching System for Image Data in
“*Les Modes*”

Keiko NOHZAWA, Kiwa NAKANISHI

はじめに

『レ・モード』誌は、1901年から1937年にかけてフランスで編纂され、欧米の主要都市で販売された高級ファッション誌である。ファッションだけでなく、ジュエリーやインテリア、絵画等、当時の女性の生活に関わる事項の最先端の流行を内容としている。それまでの版画やイラスト等で紹介されてきたファッション誌とは異なり、写真で紹介されているため、当時の上流社会における趣味の傾向をより精密に検証でき、服飾史研究上、史料価値の高い雑誌である。しかし、現存する『レ・モード』誌は希少であり、一般には手に入りにくい。また、『レ・モード』誌は二つ折判という大判で、画像資料が多い上に、現状では1年分ずつ合本されており、1巻4.2kg～6.3kg、平均約5kgもある。このため、その中から見たい画像や知りたい情報を探し出すには多くの時間と労力を要し、雑誌の損傷を避けるには、取り扱いには注意を払わなければならない。

本稿では、『レ・モード』誌を多くの研究への活用を容易にするための、画像検索データベースの作成と、画像に関する掲載事項の検索、および各研究に必要な情報収集を可能にするシステム作成の試みについて述べる。

1. 『レ・モード』誌のファッション誌史上における位置

(1) 服飾版画の始まり—コスチューム・プレート期—

ファッション誌の歴史は服飾版画の歴史とも言える。服飾版画は、16世紀にはすでに存在し、衣装やファッションの伝達媒体として印刷されていた。類似した役割のものに風俗版画があるが、これは観賞目的の純粹版画、美術版画の系列に置かれるのに対し、服飾版画は衣装やファッションの情報源という性質が強く、観賞はむしろ付随的なものとされた。しかし、フランス革命の頃までは芸術性の高い、鑑賞用の比重の高い作品も生まれた。

*服飾美術学科 服装史研究室 **尚美学園大学(非)、秋草学園短期大学(非)

1770年代までの間には、多くの優れた版画芸術家が出現したことにより、服飾版画は急速に発展し、それによって流行の広まり方が従来とは比べものにならない程速く、広い範囲に伝わるようになった。しかし、この期間の服飾版画は、流行を予測するような服飾を描いたり、伝達したりすることが目的ではなく、現実や過去の衣装が多く描かれ、依然として後世に伝えるための記録としての描写が中心であった。こうした種類の版画をコスチューム・プレートと呼んでいる。

(2) 服飾版画の展開—ファッション・プレート期—

1770年代になると、内容を最新ファッションに絞った、ファッション雑誌が刊行されるようになった。流行を予測した服飾版画が掲載され、最新のファッションを伝達することを意図して刊行されるようになり、これまでの服飾版画とは果たす役割が変化した。ここから19世紀末まではファッション・プレート期と呼ばれる。またこれまでの無彩色版画ではなく手彩色を施したものも登場するようになった。

雑誌の歴史については、荒俣宏氏が述べている内容をまとめると、次の通りである。1605年にアブラハム・ヴェルホーフェンによって刊行された、隔月の月刊誌『ニーウェ・ティディンヘ』が最初の定期刊行物であり、価格的に手に入りやすい週刊誌としては、1631年にテオフラスト・ルノードによって『ラ・ガゼット』が刊行されたのが始まりとされる。また、フルカラー・イラストを収めた雑誌としては、1752年にゴートイエ・ダコティー家によって刊行された、『自然史観察紀要』がおそらく最初であると言われている。これは自然科学の話題を集めた色刷り図版入りの研究紀要であるが、コストが高いことや色刷りの技術を公開しなかった等の理由で広く普及せず、1755年までの3年程しか続かなかった¹⁾。

誌上にファッション情報を掲載した最初の雑誌は、1672年に刊行された『メルキユール・ギャラン』誌であり、この雑誌がファッション誌の草分けと言われる。しかし、初めて服飾版画の挿絵が登場するのは1678年になってからである。またこの雑誌は政治から風俗まで、幅広い題材を扱った総合雑誌であり、ファッション誌ではなかった。

世界で最初のファッション誌は、1770年にロンドンで刊行された『ザ・レディーズ・マガジン』であり、初期の他のファッション誌としては、アムステルダム刊の『無題誌』(1777年)、パリ刊の『ギャルリー・デ・モード』(1778～1787年)、同『キャビネ・デ・モード』(1785～1786年)、同『ジュルナル・デ・ダーム・エ・デ・モード』(1797～1839年)、ロンドン刊の『ギャラリー・オブ・ファッション』(1794～1803年)、19世紀に入ってからパリ刊の『ラ・ベル・アッサンブレ』(1806～1832年)、『ル・ボン・ジャンル』(1801～1822年)などがある。

19世紀にはファッション誌の種類は徐々に増加し、また版も大型化の傾向を辿った。また当初各号に数枚程度の挿絵が入っているのみであったのに対して、19世紀後期には手彩色図版数枚のほかに、モノクロの挿絵ページが豊富に加わるなど、視覚的な情報も増大していった。

20世紀初期には大衆的な読者向けファッション誌として『ヴォーグ』(1890年～)が挙げられる。同誌は、グラビアなどの印刷技術を導入してモノクロのイラストと写真図版を豊富に用いながら、

広告紙面を増やすことで、販売価格を抑えたことで知られる。

こうしたファッション誌の大衆化傾向の大きな流れの中で、敢えて時流に逆らう形で芸術性を追究したのが『ガゼット・デュ・ボントン』（1912～1925年）、『ジュルナル・デ・ダーム・エ・デ・モード』（1912～1914年）、『A・G・B（アール・グー・ポーテ）』（1921～1933年）などがある。これらには美しいポショワール刷りの版画が掲載され、ポール・イリーブ、ジョルジュ・ルパップ、ジョルジュ・バルビエ、シャルル・マルタン、アンドレ・マルティ、タヤ等の当時の一流のイラストレーターが活躍していた。しかしこれらの贅沢な手作りの雑誌は、30年代にはほとんど姿を消し、『ヴォーグ』、『フェミナ』、『ジャルダン・デ・モード』などの写真版印刷による雑誌の時代へと移行した。

(3) 『レ・モード』誌について

『レ・モード』誌、正確には『レ・モード、女性のための装飾美術の挿絵入り月刊誌』（Les Modes, revue mensuelle illustrée, des arts décoratifs appliqués à la femme）は、1901年1月にパリのグピル・エ・シエ社によって月刊のファッション誌として創刊され、1937年まで続いた。上流階級の女性を対象に当時の最先端のファッションが紹介され、パリの他ロンドン、ベルリン、ニューヨークの4都市で販売された。創刊号の価格は国内2フラン、国外では2フラン50スーであり、同時期のアメリカのファッション誌『ヴォーグ』の価格40セントと比べてみても、高額な雑誌であったことが窺える。

『レ・モード』誌が刊行された1901年から数年後、コルセットで豊満な胸とヒップ、細いウエストを強調し、凝った装飾が施された19世紀末のS字型スタイルは、パリのオートクチュール・デザイナー、ポール・ポワレやロシアからやってきたバレエ団、バレエ・リュスなどの影響によって急速に衰退し、程なくほとんどの女性がコルセットから解放された。さらに第一次世界大戦後の20・30年代には一層機能的でシンプルなスタイルに変化していく。『レ・モード』誌にはこうした時代のファッションの変化の全貌が掲載され、当時のファッションの詳細を知る上で資料的に価値の高い雑誌と言える。

雑誌の形態は二つ折り判（35×27.5cm）で、最高級の紙が使用され、表紙は毎号カラー印刷による写真または絵画で飾られた（図1）。従来のファッション誌は銅版画による図版を挿入するのが主流であったが、『レ・モード』誌は創刊号より、図版には画家の作品を紹介するページを除くとすべて写真を用い、表紙と中の1, 2ページにはカラー写真印刷技術を導入した。ナダール、ルーTRANジェ、マニユエル、フェリックスなど当時活躍していた写真家による作品を表紙と本文に用いている。この点において『レ・モード』誌は、やがて訪れる写真中心の雑誌の時代を大きく先取りした、極めて前衛的で、なおかつ贅沢なファッション誌であったとも言える。

創刊号は32ページで、誌面の構成は「社交界の出来事」（4ページ）、絵画（イタリアの画家ボルディーニに関する評論、4ページ）、ジュエリー（5ページ）、ファッション（13ページ）、室内装飾（6ページ）、モード図版モデルの紹介（1ページ）からなる。全頁を通して、ファッションを示す

写真は19点（内カラー2点）、その他帽子・髪型を示す写真が8点含まれる。ジュエリーの写真は6点、インテリアの写真は5点である。多少の変化を見せながらも、第一次世界大戦前は、ほぼこのような構成を維持してゆく。

圧倒的に大きな位置を占めるのがファッション情報であることは言うまでもないが、写真にはウォルト、ドゥーセ、レドファン、ルフ、ドゥイユ、ジャンヌ・ランヴァン、パキャン、キャロ姉妹、ジェニーなどのクチュール店の作品であることが明記され、当時上流社会で人気のあった店を知る手掛かりとなっている。

『レ・モード』誌に掲載された作品にはメーカー名と共に午前中用のドレス、午後の散歩服、観劇用、舞踏服、晩餐会用、競馬観戦用、ガーデンパーティ用、室内用といった説明が添えられ（図2）、当時の上流社会のドレスコードの複雑さもしのばれて興味深い。

写真モデルの名前も多くの場合記載されているが、貴族、ブルジョワなどの上流社交界の女性達、クルティザン（高等娼婦）、舞台女優、専門のモデルなどが実名入りで登場している。時代ごとにファッションの中心を占めるグループの変遷を展覧できることのほか、舞台女優ではサラ・ベルナル、マタ・ハリ、イヴォンヌ・プランタン、レジャーヌなど、わが国でも馴染みのある面々が登場しているなど、具体的なファッションの変化だけではない側面的な興味をもそそる雑誌である。

『レ・モード』誌は第一次世界大戦の影響により、1914年9月号から刊行を中断し、1915年12月号からは不定期ではあるが、再刊行している。1916年にはまた元の月刊の状態に持ち直した。その後、1920年には編集者のアーベル・ソワゾンが買い取り、創刊以来貫いてきた贅沢さ、豪華さといった雑誌の方針を維持しつつ、より幅広い分野のアーティストや数多くのデザイナーの発表を試みたが、1937年に廃刊となった²⁾。

本稿で対象とした『レ・モード』誌は、東京家政大学服装史研究室所蔵の、1901年から1920年の間に出版されたもので、創刊号の1901年1月から12月号分を取めたものが第1巻であり、第13巻にあたる1913年分までが1巻に12冊ずつまとめられている。1914年分から1920年分までは当時の出版状況や現在までの保存状況の関係により各1年間分で12冊揃わないため、この7年間分を2巻に分けてまとめている。

各巻には各号ごとの目次一覧と、1年間に掲載された全てのファッション・デザイナー、画家、アーティストをそれぞれアルファベット順に並べ、掲載号と掲載ページを網羅した索引が巻頭、もしくは巻末に編集されている。

2. 画像検索データベースの作成

(1) 撮影と画像処理

画像検索データベースの作成では、中心とするのは画像資料であるため、『レ・モード』誌の表紙、誌上の写真や挿絵等、広告、裏表紙を対象とし、また検索システム用の文字資料としては誌上の写真や挿絵の説明となるキャプションを対象とした。記事の内容は必ずしも掲載されている写真

等の画像資料と直接関連しないため、検索システム用の文字資料としては対象外としたが、検索した画像資料の間接的参考資料になると考え、記事も写真等と共に画像資料としてデータベース化することにした。従って、画像のみを切り取る処理は行わず、1ページを1件のデータとしてデータベース化することとした。

撮影にはNikon D2x³⁾を用い、Adobe Photoshopで画像処理を行った。ファイル形式はJPEGで、最低圧縮率で保存した。

(2) 概要

画像検索データベースの作成にはMicrosoft Accessを使用する。画面の表示方法としては、Accessのフォーム機能を使用する。フォームはデータの入力や参照、更新等を効率よく行うためのオブジェクトであるが、フォームを単票形式で作成すると、データ1件を1画面に表示したり、写真や絵を表示したりすることが出来る。データの表示項目は、IDとしてデータの通し番号、画像ファイル名、発行された年、月、雑誌の号数、ページ、写真や絵の説明等が書かれているキャプション、キャプションに使われているキーワード、そして画像とする。

画像を表示する際、AccessではOLEオブジェクトとしてフィールドに直接画像ファイルを埋め込んで保存することが出来る。OLEオブジェクトとは、例えばExcelのグラフ、Wordの文書、写真、音声などのWindowsオブジェクトのことであるが、OLE (Objects Linking and Embedding)機能があり、異なるアプリケーション間でデータを共有することが出来る。しかし、Accessには保存する画像の量が多くなると、データベースファイルのサイズが肥大してしまう、という欠点がある。そこでこれを避けるために画像ファイルを直接フィールドに埋め込んでAccessのファイル内に保存するのではなく、ファイル名のみをフィールドに保存し、画像はデータベースファイルとは別のエリアに保存し、必要な時にコードで呼び出して表示することにした。また、画像をクリックすると別画面で画像が拡大表示されるようにした。Microsoft office2003以前のソフトがインストールされている場合には「Picture Manager」が起動し、Microsoft office2007以降の場合は、「Internet Explorer」が起動して画像が表示される

検索方法としては、Accessのフィルタ機能を使用する。「キーワード検索」用のテキストボックスを作成し、キャプションに使われているキーワードを入力したフィールドと連結させ、入力したキーワードからデータを検索し、絞り込むシステムを作成した。キーワードを入力すると、画像資料の説明文であるキャプションをキーワード化した中から抽出される仕組みになっているため、1901年から1920年の間に出版された資料の中から、入力したキーワードに関わる画像や情報をすぐにピックアップし、順に見ていくことが出来る。キーワード検索に関しては、完全にキーワードが一致しなくても抽出されるようにしたため、大文字や小文字の切り替えをしなくても検索でき、キーワードが完全に入力されていなくても検索できるようにする。これによって利用者の入力ミスによるデータの見落としを防ぐことができる。

また、コンボボックスを作成し、雑誌が発行された年、月、雑誌の号数、ページの項目からも検

索が行えるようにしようと考えた。雑誌の年、月、号数、ページ数の表示の欄はプルダウンリストの中から選ぶことも直接入力することもでき、キーワードによって検索されたリストの中からさらに絞り込んで表示させることができる。このように『レ・モード』誌を画像検索データベース化することにより、貴重資料を容易に閲覧することが可能となり、それによってその価値が最大限に発揮され、諸研究が一層促進されることが期待できる。

(3) 手順

画像はデータベースファイルとは別のエリアに保存するが、画像数が多い上に最低圧縮率で保存するため、画像ファイルのサイズが非常に大きくなることが予想されるので、画像はPC内のハードディスクに保存するのではなく、DVD-RやUSBメモリ、外付けのハードディスクなどの外付けのメディアに保存したものを使用することを想定した。従って、メインメニューとなるフォームを検索画面とは別に作り、そこで画像が置いてあるフォルダの保管場所を設定できるようにする。

1) メインメニューの作成

まず、メインメニュー用のテーブルを作成し、空のデータを1行作っておく。このテーブルを元にフォームを作成し、修正を行う。ここではメインメニューには必要の無い、追加や削除の項目を禁止し、レコード移動ボタンが表示されないように修正する。この画面は画像の保存場所を設定するためのものであり、そのためのレコードが削除されるのを防ぐためである。1件のみのレコードが必要であるため、レコードを移動する必要も無い。また、タイトルを入力したり、ラベル名を変更するなど画面のデザインを整えておき、検索画面への移動ボタンを作成しておく（図3）。

このメインメニューにおいて、画像が置いてあるフォルダの保管場所を設定する。今回、画像ファイルはすべて外付けのメディアの中に「LES MODES」という名前で作成したフォルダに入れたが、例えば図1で「画像保存フォルダ」の欄が「E:¥LES MODES¥」となっているのは、「LES MODES」フォルダの存在する場所を示している。「E」はPCの中における外付けメディアの場所を示しており、これは「マイコンピュータ」で確認できる（図4）。外付けのメディアがUSBの挿し込み口に複数挿し込んである場合、挿し込む順番によってこの場所が変わるので、毎回確認する必要がある。「LES MODES」フォルダが入っている外付けのメディアをPCに挿し込んだ時、そのメディアの場所が「E」であれば「E:¥」を、もし「D」であれば「D:¥」を「LES MODES¥」の前に入力する。

2) 画像検索フォームの作成

画像を表示したり、検索するフォームを作成するために、まず画像リストのテーブルを作成する。フィールドはIDとしてデータの通し番号（フィールド名：ID）、画像ファイル名（フィールド名：FileName）、発行された年（フィールド名：Year）、月（Month）、雑誌のNo.（フィールド名：No）、ページ（フィールド名：Page）、写真や絵の説明等が書かれているキャプション

『レ・モード』誌画像検索データベースの作成

(フィールド名: Caption)、キャプションに使われているキーワード (フィールド名: Keyword) を作り、図5のように設定し、それぞれのデータを入力していく。ページはタイトルページを1ページ目とし、ページ数が書き込まれていない箇所は前後のページから推測した。カラーページはページ数に含まれていないが、雑誌のどの辺りに掲載されているのかを判断しやすくするため、例えば12ページと13ページの間にカラーページが挿入されている場合は、「12-13」と入力した。画像ファイルはAccessのデータベースファイルと同一フォルダ内に保存した。



図1 1911年5月125号の表紙。
モデルの女性が身につけているイザニング用の
ドレスとヘアスタイルはパキャンのデザイン



図2 レドファンデザインによる競馬観戦用の
ドレス (1904年8月44号7ページ)



図3 メインメニューの画面

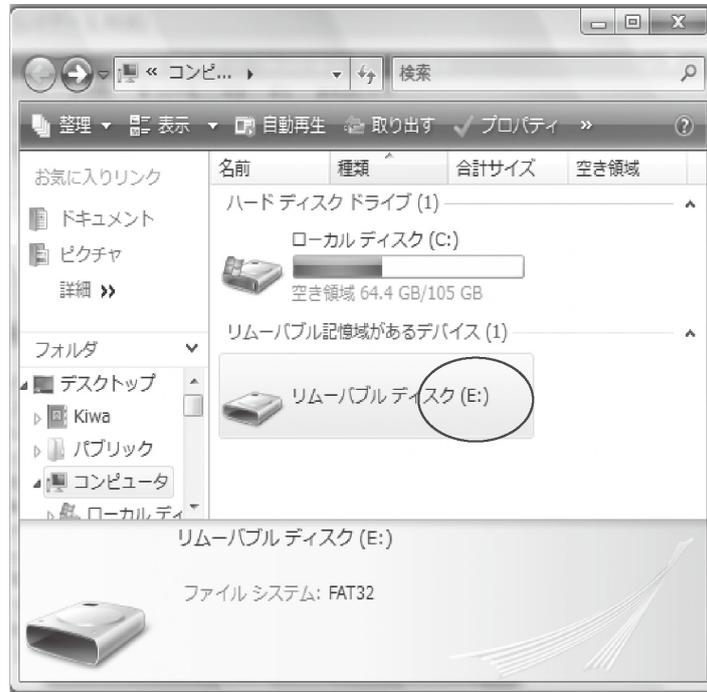


図4 外付けのメディアの場所を「マイコンピュータ」で確認する

T画像リスト：テーブル			
	フィールド名	データ型	説明
1	ID	オートナンバー	
	FileName	テキスト型	
	Year	テキスト型	
	Month	テキスト型	
	No	テキスト型	
	Page	テキスト型	
	Caption	メモ型	
	Keyword	メモ型	

図5 フィールド名とデータ型を設定し、画像リストのテーブルを作成する

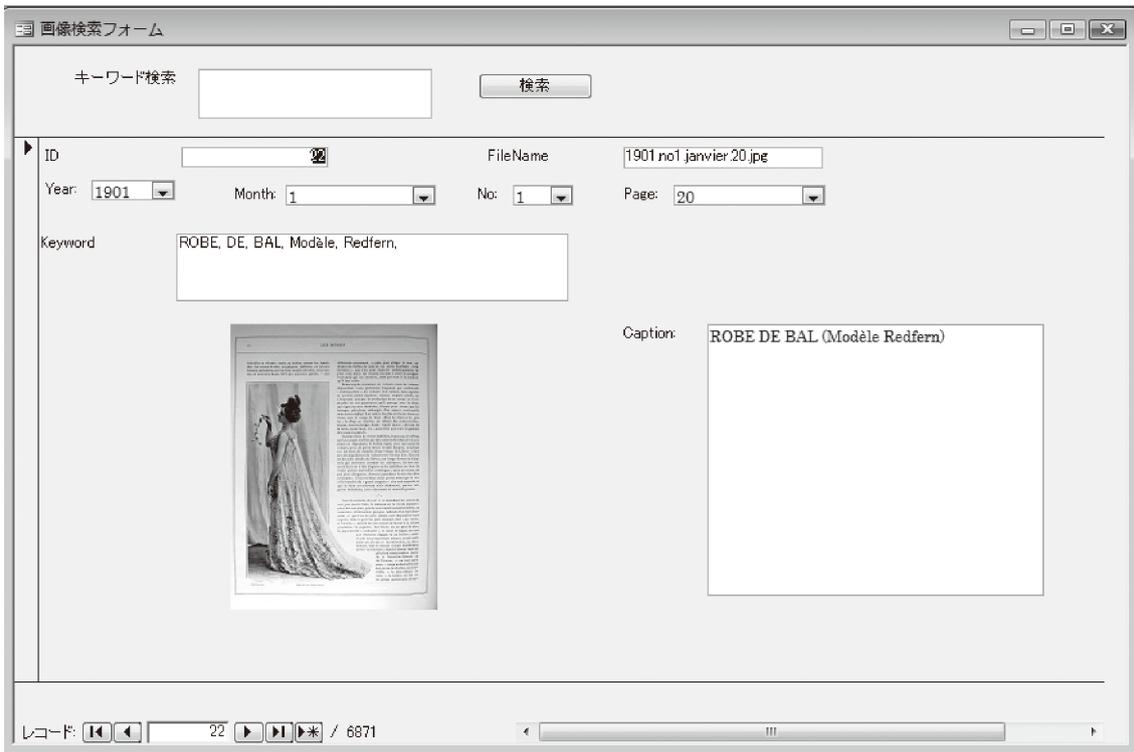


図6 フォームで作成した画像検索画面

次にこのテーブルを元にフォームを単票形式で作成した。フォームの「詳細」のセクションに「イメージコントロール」を作成し、ピクチャタイプを「埋め込み」から「リンク」に変更した(図6)。

3) 処理コードの記述

処理の作成には Visual Basic for Applications (VBA) を使用してコードを記述した。メインメニューのフォームには、ボタンをクリックすると画像検索フォームが開くコード (OpenForm)、エラーを処理するコード (On Error)、エラーの時に表示する画像やメッセージを設定するコード (Is Null, MsgBox, Resume) を記述した。

画像検索フォームには、イメージコントロールに画像を表示するために、画像を表示するコード、メインメニュー用のレコードと画像検索フォーム用のレコードから値を取得して連結させ、画像の絶対パスを作成するコード、画像をクリックした時に別画面で拡大表示された画像を開くための処理コード (HyperlinkAddress) を記述した。拡大された画像の拡大率は、画像が表示された後に自由に設定できる (図7)。データを検索するためにはフィルタ機能 (Filter) を使用し、キーワードを入力できるテキストボックスとコマンドボタンを作成した。文字を入力し、ボタンをクリックすると、「Keyword」のボックスに入力された単語と一致するレコードが抽出され、レコード移動ボタンを押していくと抽出されたデータを見ていくことが出来る仕組みになっている。一致

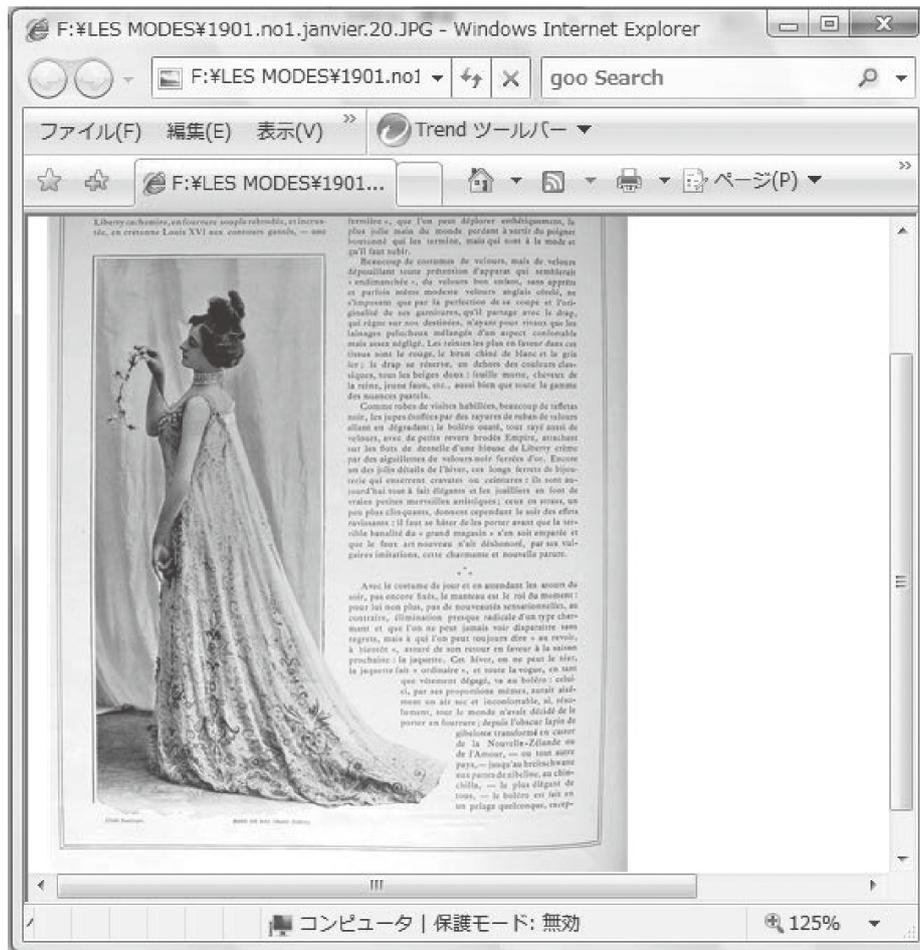


図7 拡大表示させた画像。拡大率は自由に設定できる。

したレコード数が画面下のレコード移動ボタンの右端に表示される。抽出方法としては、キーワードと完全一致しなくてもキーワードの文字列を含んでいるデータを見つけ出す検索方式である、「部分一致検索」を行う処理コードを記述した。

さらに雑誌の年、月、号数、ページ数に関しては入力するのではなく、一覧から選べるようにするためにコンボボックスを作成した。「値集合タイプ」は、年、月は「値リスト」で、号数、ページ数は「テーブル/クエリ」で作成した。

3. 『レ・モード』誌画像検索データベース化の予想される効果

本稿で作成した、服飾史研究において一次資料となる『レ・モード』誌の画像検索データベースを使用することにより、キーワード検索を行うと、膨大な資料の中から一瞬で見たい画像や情報を表示させることができるようになった。

データベース化された資料は、データに対してコマンドを実行できるようになり、データの検索の他、データの並べ替えや集計、分析、レポートの作成などの作業を短時間で行うことが出来る。

異なるファイル等から得るデータとも組み合わせることが出来るので、情報を手作業で入力し直す必要が無くなり、データの処理を効率良く正確に行うことが出来るようになった。

このデータベースは多くの20世紀初頭のファッション史研究において活用されることが期待されるが、例えば次のような事例が予想される。

(1) デザイナーの活動期等

当時活躍していたファッション・デザイナーについて調べるために、キーワード検索の欄にデザイナーの名前を入力し、検索すると、同誌に掲載された画像資料の説明文であるキャプションをキーワード化した中から、そのデザイナーの名前がキャプションに含まれている画像資料がピックアップされてくる。その画像資料がいつ、何年の何月に発行された何号の雑誌に掲載されたのかが表示されるため、そのデザイナーの作品掲載数の時期ごとの変化を分析し、そこからそのデザイナーの活動状況等を推測することが出来る。

(2) モデルの変遷

本誌には、衣服のモデルとして、上述のとおり、貴族やブルジョワの夫人、クルティザン（高等娼婦）、女優などが名前入りで登場しており、その身分・職業は年代によって、変化している傾向がみられる。これらモデルとなっている人物の名前等を入力し、検索することにより、モデルとなる人々（おそらくファッション・リーダー的な存在）の身分・階級や職業などの変化の傾向を数的に把握・分析することができる。

(3) 服種別の流行・ジュエリーやインテリアにおける趣味の動き

上述のとおり、本誌には多彩な用向きの服装が掲載されているが、その種類には時代ごとの変化があるものと推察される。これら服装の変化—それはおそらく生活様式の変化につながると思われる—を数的に把握・分析することができる。また豊富なジュエリーとインテリアの記事からも同様のことが言える。

(4) 各キーワード記載頻度

雑誌の写真等の画像が掲載されているページだけでなく、記事のみのページや表紙、目次、広告、裏表紙等すべてのページを画像資料としてデータベース化してあるため、調べるキーワードに関する事柄が、1冊の雑誌の中でどのくらいの割合を占めているかということも調査することが出来る。

(5) 服飾専門用語の変化

キャプションのキーワードの分析として、『レ・モード』誌に画像として掲載された服飾の用語を年毎、月毎に集計・分析を行うことにより、年数を経るごとに使用される服飾用語がどのように

変化していったのかを調査することができる可能性がある。

まとめ

服飾史研究としての史料価値の高い雑誌である『レ・モード』誌を多くの研究に活用できるようにするため、画像検索データベースを作成した。テキストボックスに文字を入力すると、画像と共に入力されたキーワードの中から一致するものを抽出し、画像と画像に関する情報を表示させることができる。またその画像を別画面で拡大表示させ、そこからさらに拡大・縮小したり、自由に大きさを調節し、画像と同じページに掲載される記事も読むことが出来るシステムを作成した。これにより、利用者がそれぞれの希望する方向に沿って効率よく検索出来ると考えられる。また、本稿の方法で作成すれば、データベースに関する高度な知識や技術が無くても画像検索データベースを作成することができると考えられる。

今後は、3.『レ・モード』誌画像検索データベース化の予想される効果 に掲げた事柄を実践すると同時に、『レ・モード』誌に登場するデザイナーやデザイナーの作品、服飾品の種類などの説明等が表示されるようなシステムや他のファッション誌との比較ができるようなシステムを作成したいと考えている。またAccessにはデータファイルのサイズに制限があるため、複数のファイルにテーブル分割し、メインとなるファイルからリンクを貼って表示させる方法等も検討していきたい。

註

- 1) 荒俣宏著、『20世紀雑誌の黄金時代』, 平凡社, 1998年, p.28, p.85.
- 2) 『レ・モード』の発行状況や詳細については、Hiler, Hilaire & Meyer; Bibliography of costume, Benjamin Blom, 1967、Remaury, Bruno; Dictionnaire de la Mode au XXe siècle, Regard, 1994、文化女子大学図書館編、『文化女子大学図書館所蔵 服飾関連雑誌 解題・目録』, 文化女子大学, 2005年等の記述を参考にした。
- 3) レンズ交換式一眼レフレックスタイプデジタルカメラ。有効画素数：124メガピクセル。

参考文献

- 1) 石山彰編、『西洋服飾版画』, 文化出版局, 1974年
- 2) 荒俣宏著、『ファッション画の歴史』, 平凡社, 1996年
- 3) Holland, Vyvyan: Hand coloured fashion plates 1770-1899, B.T.Batsford ltd., 1955.